

「髄液バイオマーカー診断された軽症アルツハイマー病患者における漢字能力の臨床的意義」

第 61 回日本神経学会学術大会(2020 年 8 月 31 日-9 月 2 日@岡山)

【発表者】 葛谷 聡 1, 宮本 将和 1, 山本 洋介 2, 打田 倫子 1, 国立 淳子 1, 江川 斉宏 1,
木下 彩栄 3, 福原 俊一 2, 高橋 良輔 1

【所属】 1 京都大学医学研究科 臨床神経学、2 京都大学医学研究科 社会健康医学系 医療疫学分野、
3 京都大学医学研究科 人間健康科学系 在宅医療看護

【目的】

日本漢字能力検定協会（以下、漢検）との共同研究にて、髄液バイオマーカー診断された軽症アルツハイマー病（以下、AD）患者の漢字能力を評価し、病態との関連を検証する。

【方法】

対象はもの忘れを主訴とする当院患者で臨床的に軽症 AD（年齢 55 歳以上）が疑われ、髄液中の AD バイオマーカーを測定した疾患群 44 名と質問票により物忘れを認めない健常群 56 名。疾患群は髄液 AD バイオマーカー陽性 23 症例を AD 群、陰性 21 例を非 AD 群に分類。各種認知機能検査、画像検査に加え、漢検の漢字検定問題（5 級から準 2 級）よりランダム抽出し作成した漢字読み書き問題を実施し、AD における漢字能力を統計学的に検証した。

【結果】

漢字書字テストの正答率（mean [SD]）は、健常群 73.2（20.7）%、非 AD 群 48.1（19.5）%、AD 群 44.1（24.0）%と疾患群で有意に低下した。誤答パターンを無反応、錯書に分類し、誤答における無反応の割合（以下、無反応率）（mean [SD]）を比較したところ、健常群 36.5（30.9）%、非 AD 群 56.1%（23.4）%、AD 群 59.5%（26.9）%と疾患群で有意に増加した。スピアマンの順位相関分析を用いた解析で、AD 群でのみ無反応率が論理的記憶（ $r = -0.587, p < 0.005$ ）、MMSE（ $r = -0.538, p < 0.01$ ）、カテゴリー語流暢（ $r = -0.507, p < 0.02$ ）と有意に相関した。さらに AD 群を無反応率の高い群、低い群で分類したところ、両群で教育歴、年齢、髄液バイオマーカーによる AD 病理指標（ p -tau 値 \times A β 40/42 比）には有意差がないものの、低無反応率群で有意に MMSE 高値を認めた。また統計画像解析を用いて脳血流 SPECT を両群で比較した結果、低無反応率群で特定の領域で有意な血流低下を認めた。【結論】AD では早期より漢字の想起障害を認め、論理的記憶、語想起、MMSE と相関した。教育歴や AD 病理が同程度でも、漢字の想起障害が不良なほど認知機能障害の程度が強く、漢字書字能力と AD 疾患抵抗性との関連が示唆された。